

地域住民が気軽に集う渋川公民館

二本松市にある渋川公民館では放課後になると下記の写真のように子どもたちが集まってきます。公民館が地域の身近な存在であり、気軽に集える居場所として機能しています。

地域に愛される公民館を目指して

気軽に立ち寄ることができる公民館にするために、職員も含めて親しみが持てる環境づくりが求められています。

公民館が住民にとって最も身近な学習の拠点であるという意識を持ってもらうために、来訪者とのコミュニケーションをとりやすい環境づくりが大切です。渋川公民館のように住民が気軽に集えるスペースや相談窓口を工夫してつくることにより、自然な形で集うための環境づくりができています。気軽に集う中で、住民のニーズを把握したり、情報を発信したりしたいものです。



子どもたちとの交流を図る高齢者学級

多世代交流で地域づくりを目指す公民館

二本松市では高齢者を対象とした「ふれあい学級」を各公民館で実施しています。特に渋川公民館と上川崎公民館では、高齢者学級生が地域の子どもたちとグランドゴルフを通じて交流を図っています。地域が活性化するためには多世代の交流が不可欠です。この取り組みは高齢者にとっても子どもたちにとっても価値の高い事業だと感じます。



公民館長の話



高齢者の方は子どもたちとの接点が少なく自分たちの地域にどんな子どもたちが住んでいるか分からなかったのですが、この交流活動を通じて高齢者の方々が子どもたちの名前と顔を覚えられました。そうすると、道で出会ったりすると、高齢者から、または子どもから自然と声をかけあうようになり、普段の生活の中でも交流が生まれました。

ある高齢者の方ですが、グランドゴルフで知り合った子どもたちが道ばたで遊んでいたのを声をかけようと近寄って話をしていたところ、近くにスズメバチの巣を発見しました。これは大変だと思い、すぐ役所へ連絡し駆除してもらったそうです。子どもたちと高齢者の交流活動が子どもたちや地域の安全につながったのだと思います。